

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

6月下旬だが、朝晩の肌寒さが気になってしまふ。衣替えて片付けた長袖衣料が再登場だ。  
コロナワクチンの高

齢者への接種が進むにつれ、笑顔に出会える機会が増え始めた。山形大学医学部の研究では、声を出してよく笑う人の死亡リスクは、ほとんど笑わない人の約2分の1に軽減されるとし、病気発病の遺伝的要素と生活慣習の関係を解明して、健康に関する笑いの効用が科学的に証明されれば、「笑い」は健康寿命にとっても貴重なことだ。今後の社会政策の中で「笑う」に重点を置いた考え方が広がったら、どんなに明るい社会になるか楽しみにする。

中で創造力は未来の人への思いやりだ。それを諦めた時に破壊が生まれるんだ」と語った。新型コロナウイルスの爆発的感染を恐れるために訪日外国人への風当たりは厳しさを増していくだろうが、オリパラで数多く訪日「笑い」は健康寿命に大切なことを他国の人への思いやりを、噛みしめてほしい。その事が将来の観光立国としての未来があると信じてほしいものだ。

信濃毎日新聞に掲載された「65歳超え、まだまだ おばさん」の記事が気になる。内閣府が実施した「高齢者の日常に関する意識調査」では、自分が高齢者だと感じるかという設問に「はい」と答える人が過半数に達したのは75〜79歳で、70〜74歳は「いいえ」が上回ったと紹介した。しかしコロナワクチン

の日常に関する意識調査」では、自分が高齢者だと感じるかという設問に「はい」と答える人が過半数に達したのは75〜79歳で、70〜74歳は「いいえ」が上回ったと紹介した。しかしコロナワクチン  
される事も事実だ。同年代でも身体的に差がある事も常に考え、自分本位に考えずに他を思いやる気持ちで、今後予想される区分の変更に關心を持ってほしいと願っている。  
今年発表されたオリックス株式会社が公募した「第5回オリックス働くパママ川柳」の大賞作品「テレワーク九九の呼吸が漏れ聞こえ」状況を理解出来た人は世相を読み取る達人だ。講評で「テレワークや呼吸」といった時代を切り取るフレーズを取り入れ、自宅です



地域環境保全のための活動も高齢化で作業継続が年々心配になっている

どもを傍らに感じながら仕事を奮闘する様子を表現していると評価した。コロナワクチン接種が進捗して、穏やかな生活にいち早く戻りたいと、誰もが思っているはずだ。  
(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)